

ゆきちゃん通信

2000年11月15日
No.10
発行人 tomi



秋晴れのコスモス畑



10月の日曜日に家族でコスモスを見に岐宿までドライブに行きました。一面のコスモスに由紀子は「きれい！きれい！」を連発して大喜び、そして、楽しそうに踊りながら「風がさやさや〜。」といました。その「さやさや〜」の言葉で秋風が私たちとコスモスを包んでいたことに、初めて気がついた私たちでした。そして、その一言のおかげで目からだけでなく身体中で秋を感じることができました。コスモスと青空と秋風、本当に気持ちの良い1日でした。

最近、由紀子の言葉が豊かになったと感じます。言葉の数もそうですが、表現がとても豊かになった気がするのです。感じたことを素直に言葉にできる由紀子に忘れていた小さな事をよく思い出させてもらうこの頃です。

今回は由紀子のいたずらを集めてみようと思います。

最近の由紀子のいたずらには目を見張るものがあります。成長？そう思えば我慢もできますが時々、プチッといきそうになります。



電話編

我が家に電話をすともしかして、「ペーパーミントパティ」という女の子が出るかもしれません。誰？それは由紀子です。今まで電話が嫌いであまり電話に出なかった由紀子が急に電話に興味を持つようになりました。きっかけは「スノービー」のビデオでした。その中の「私ペーパーミントパティよ！」というセリフが気に入って、家族が留守にしているあいだにかかってきた電話に出るはこのセリフを言って勝手に切ってしまう。相手は何が起ったかわからないまま……。最初に被害にあったのはお父さんでした。電話に出られるようになったことは大きな成長ですがこれはちょっと問題です。

電話の受け方の練習もさせようとするのですが、家族がいるときには絶対に電話を取らないのです。

熊本のネーネー（長女）のところに電話を掛けても、自分の好きな言葉を連発して、最後は「バイバイ」……ちっとも電話の役目を果たしていないのです。

そうそう、最近またパターンが増えました。

「**現在の電話番号は使われておりません。お確かめの上おかけ直してください。**」

もう、笑うしかありません！（^o^）

どうぞ、皆様 我家に電話をしてこのセリフが流れましても電話番号は変わっておりませんので、後ほどおかけ直してください。

落書き編

2年生になって由紀子はひらがなが書けるようになりました。今まで絵を書くことも、鉛筆を持つこともしなかった由紀子はここに来て書くことの楽しさに目覚めたようです。はじめはちゃんと紙に書いているのですが、そのうちに筆は自分の身体に移っていきます。

おとなしいなと思って見に行くと足から手までびっしりと何か模様でいっぱい……。 (字かなとも思うのですが……。判別不能です)

時にはそれが、鏡台の鏡だったり、畳だったり、テーブルだったり……。さすがにこの時は私も怒ります。きびしく説教をした後で、ブンブンして落書きを消していると「おかあさん、ごめんなさい！」と、顔を覗き込んでくれます。最近では謝る事も上手になって……

でも、「もういいよ！」の一言で半べそ顔からすっかりもとの顔に戻る変わり身の速さはなんなの？



校長室編

由紀子は以前も書いたように校長先生が大好きです。学校では教室の移動のときに校長室を覗いては先生のお顔を見に行っているようです。それだけでも、忙しい時間を申し訳なく思っているのに、聞くところによるとそこでも1つ余計な事をしてくるらしいのです。

校長室のかぎは外から南京錠を掛けるようになっているのですが、なんとその元の掛け金を部屋を出る時に掛けてきてしまうのです。

するとどうなるか……。校長先生は閉じ込められてしまうのです。「いやいや」と笑って許して下さる校長先生に感謝しています。

今では用心して掛け金を内側に倒して下さっているとか……。

誠に申し訳ございません。

いろいろな出会い

この春からケンちゃんというお兄さんがクラスメイトに加わりました。ケンちゃんも由紀子と同じ自閉症です。

ケンちゃんとは以前からの知り合いで、相性はいいほうかな？と思っていました。最近この二人が本当に仲がいいのです。

お互いに姿を見つけると、駆け寄ってきておさまりのセリフでコミュニケーションを取っていたり、時には二人並んで座って談笑してたりします。

でも、いつもそばにいてくれるわけではなく、同じ部屋にいてもお互いまったく知らん振りのときもあります。

不思議な関係ですが、ケンちゃんといるときに由紀子の顔はともりラックスしているような気がするのです。

今まで由紀子にはそのように心を許せるお友達はいなかったかもしれません。

もちろん、今までも仲のよいお友達はいましたが、それはいつも由紀子が頼りにしているというか……お世話をしてもらえる友達でした。

この二人には、言葉ではなく何か理解しあえるものがあるのかもしれないです。

私は、なんだかうれしいです。今まで自閉症の人はコミュニケーションが苦手だから基本的にはずっと孤独なのかもしれないと思っていました。でも、それは違うようです。由紀子にも理解しあえる仲間がいるのです。

良い出会いがあつて本当によかつたね！と心から思う私です。

これは新しい恋か？

いえ！いえ！由紀子はいまだに○野先生を思い続けております。

先日も久しぶりに○野先生にお会いしましたが、相変わらずドキドキの由紀子ちゃんでありました。

これって遠距離恋愛といわれないのかな？

(○野先生に本当の恋人ができるまでそういうことにしてやってください。)

